

2017年のマーケットを振り返る ～2018年のヒントを探る～



比較的波乱の少なかった2017年

皆様、あけましておめでとうございます。平素よりマネックス証券の商品・サービスをご利用いただきまして誠にありがとうございます。本年も皆様の投資成績向上の一助となれますよう精一杯努めて参りますので、マネックス証券および銘柄フォーカスレポートをどうぞよろしくお願いたします。

2017年があっという間に過ぎ去りました。大幅な原油安、日銀のマイナス金利導入、英国のEU離脱（Brexit）、トランプ氏の大統領選勝利など波乱の多かった2016年に比べると2017年は比較的落ち着いた年であったのではないのでしょうか。もちろん北朝鮮の度重なる軍事挑発、ミャンマーのロヒンギャ迫害問題など憂慮すべき問題は山積ですが「マーケット」についてはあまり大きな波乱はありませんでした。ダウ平均の史上最高値更新、日経平均の史上初の16連騰や26年ぶりの高値更新など株高関連のニュースが多かったと言えるかもしれません。

本銘柄フォーカスでは改めて国内外の2017年のマーケット動向を振り返ってみます。

好調だった国は？

まず、世界の主要な株価指数を見てみましょう。表1は主要国の代表的な株価指数の2016年末と2017年末の終値を比べたものです。

表1：世界の主要な株価指数の2017年の成績

国名・商品名	指数名	2016年末	2017年末	騰落率
インド	BSEセンセックス	26,626.46	34,056.83	27.9%
ブラジル	ボヘSPA指数	60,227.29	76,402.08	26.9%
米国	ダウ平均	19,762.60	24,719.22	25.1%
日本	日経平均	19,114.37	22,764.94	19.1%
ドイツ	DAX指数	11,481.06	12,917.64	12.5%
オーストラリア	ASX200指数	5,665.80	6,065.12	7.0%
中国	上海総合指数	3,103.63	3,307.17	6.6%
ロシア	MICEX指数	2,232.72	2,109.74	-5.5%
原油	WTI原油先物	53.72	60.42	12.5%
金	金	1,147.50	1,302.80	13.5%

(出所) Bloombergよりマネックス証券作成

米国、日本、ドイツ、オーストラリア、中国、インド、ブラジル、ロシアと8つの主要な先進国・新興国の株価指数を比較しました。最もパフォーマンスが良かったのはインドのセンセックス指数で、27.9%上昇しました。ブラジルのボブスバ指数も26.9%の上昇とほぼ同水準の好パフォーマンスとなりました。続いて米国のダウ平均が25.1%、日本の日経平均が19.1%と続きます。ドイツのDAX指数やオーストラリアのASX200指数も上昇はしたものの10%前後にとどまっており、このように並べてみると日経平均が世界の株価指数の中でなかなかの好パフォーマンスだったことがわかります。

また、中国の上海総合指数は6.6%の上昇と主要国の中ではやや低いパフォーマンスとなりました。ロシアのMICEX指数は8カ国の中で唯一の下落となりました。原油・金のコモディティはそれぞれ10%強上昇しました。2017年は基本的に世界的にリスク選好の株高のマーケットだったと整理してよさそうです。

日本株の動向は？

では続いて日本株について細かく見ていきましょう。前述の通り2017年に日経平均は史上初の16連騰を記録、26年ぶりの高値をつけ年間で20%近く上昇するなど好調でした。国内のその他の主要指数や業種別の指数動向は以下のとおりです。

表2：国内の主要指数の2017年パフォーマンス

	日経平均	TOPIX	JPX日経400	東証2部	日経 ジャスダック	東証 マザーズ	東証REIT
2016年末	19,114.37	1,518.61	13,614.80	5,229.90	2,739.25	942.68	1,855.83
2017年末	22,764.94	1,817.56	16,074.10	7,275.86	3,950.46	1,231.99	1,662.92
騰落率	19.1%	19.7%	18.1%	39.1%	44.2%	30.7%	-10.4%

	大型株	中型株	小型株
2016年末	1,403.72	1,813.21	2,751.61
2017年末	1,638.92	2,208.93	3,583.10
騰落率	16.8%	21.8%	30.2%

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

表2をご覧いただくと、国内の主要指数の中で最もパフォーマンスが良かったのは日経ジャスダック平均で44.2%、続いて東証2部指数で39.1%、東証マザーズが30.7%と新興市場を中心に特に個人投資家に選好される市場が好成績だったことがわかります。規模別株価指数を見ても、小型

株＞中型株＞大型株の順にリターンが良くなっており、2017年は特に小型株が有利な1年だったと整理できそうです。

続いて表3は東証33業種指数の成績です。2016年と2017年の騰落率および騰落順位を記載しています。

表3：東証33業種の業種別パフォーマンス

業種	2016年 騰落率	2016年 騰落順位	2017年 騰落率	2017年 騰落順位
石油・石炭製品	8.3%	2	52.1%	1
空運業	-16.6%	33	39.0%	2
非鉄金属	2.0%	12	34.7%	3
電気機器	2.8%	9	34.6%	4
化学	5.8%	6	33.9%	5
その他製品	17.8%	1	33.8%	6
機械	7.7%	3	32.2%	7
パルプ・紙	2.0%	11	31.5%	8
ガラス・土石製品	1.3%	14	30.6%	9
卸売業	6.9%	4	28.8%	10
サービス業	-3.0%	21	28.3%	11
建設	2.1%	10	27.9%	12
ゴム製品	0.7%	15	25.2%	13
金属製品	3.8%	8	22.4%	14
精密機器	-1.2%	17	20.9%	15
鉱業	-2.5%	20	20.4%	16
海運業	-10.2%	30	18.4%	17
繊維製品	-6.6%	25	18.4%	18
小売業	-5.0%	24	16.9%	19
鉄鋼	1.9%	13	16.8%	20
食料品	-3.8%	22	16.5%	21
倉庫・運輸関連業	-1.6%	18	14.8%	22
情報・通信業	3.9%	7	14.5%	23
保険業	-1.8%	19	11.6%	24
水産・農林業	5.8%	5	11.6%	25
医薬品	-10.6%	31	11.3%	26
その他金融業	-4.2%	23	9.9%	27
輸送用機器	-8.4%	29	8.7%	28
陸運業	-8.0%	27	8.0%	29
銀行業	-8.3%	28	7.4%	30
証券・商品先物	-1.2%	16	4.3%	31
不動産業	-7.7%	26	1.6%	32
電気・ガス業	-12.3%	32	-5.4%	33

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

2017年に最も好調だったのは「石油・石炭製品」で50%を上回る大幅上昇となりました。原油価格が堅調だったことが要因とみられます。「空運業」、「非鉄金属」、「電気機器」、「化学」、「その他製品」などが30%を上回る好パフォーマンスでした。一方で「電気・ガス業」が唯一のマイナスとなったほか、「不動産業」「証券・商品先物」「銀行業」「陸運業」「輸送用機器」「その他金融業」は一桁パーセントの上昇にとどまりました。「電気・ガス業」や「陸運業」は原油価格の上昇によるコスト高や原発を巡る不透明感などが株価低迷につながったとみられます。また、金融セクターも全般的に株価が冴えませんでした。金融セクターの本年の見通しについては[チーフ・アナリストの大槻奈那がレポートで述べて](#)おりますので、ぜひご覧ください。

2016年と2017年の騰落順位を比較すると、2016年に騰落順位が上位だった業種は概ね2017年の騰落順位でも上位に入っており、2016年に騰落順位が下位だった業種は2017年も概ね下位に入っています。業種別のパフォーマンスは2年連続で同じような傾向でした。果たして2018年はどうなるのでしょうか。

最も上昇した銘柄・下落した銘柄は？

最後に市場別の好調・不調銘柄をご紹介します。東証1部・東証2部・新興市場（マザーズ・ジャスダック）のそれぞれについて2016年末の終値・2017年末の終値を比較し上昇率が大きかった銘柄と下落率が大きかった銘柄を10銘柄ずつ表にしています。

■東証1部

2017年に上昇率が大きかった銘柄

銘柄名	12/29終値 (円)	2017年 上昇率	売買単位 (株)	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想1株当 たり配当 (円)	予想配当 利回り (%)
北の達人コーポレーション (2930)	1,455	1057.1%	100	119.8	36.7	5.5	0.3
ベッパーフードサービス (3053)	5,030	741.8%	100	83.0	27.6	35	0.5
ヤマシキフィルタ (6240)	1,386	503.1%	100	73.0	11.9	8.8	0.2
ジーンズメイト (7448)	1,086	474.6%	100	42.3	4.0	0	0
石川製作所 (6208)	3,555	438.6%	100	37.8	7.4	0	0
イソライト工業 (5358)	1,177	320.4%	100	14.6	2.7	8	0.7
オハラ (5218)	3,425	312.7%	100	52.1	2.0	20	0.6
D Dホールディングス (3073)	4,780	278.8%	100	52.1	7.5	15	0.3
東海カーボン (5301)	1,395	269.0%	100	27.5	2.5	12	0.9
ミチ産業 (3321)	2,101	238.9%	100	16.6	2.0	26	1.2

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

2017年に下落率が大きかった銘柄

銘柄名	12/29終値 (円)	2017年 下落率	売買単位 (株)	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想1株当 たり配当 (円)	予想配当 利回り (%)
キムラタン (8107)	48	-31.4%	100	-	4.3	0	0
ジャパンディスプレイ (6740)	228	-31.5%	100	-	0.5	0	0
南都銀行 (8367)	3,030	-31.9%	100	7.9	0.4	70	2.3
大崎電気工業 (6644)	815	-33.0%	100	12.1	0.9	20	2.5
東邦瓦斯 (9533)	3,090	-35.0%	100	18.3	1.0	30	1.6
日本通信 (9424)	106	-35.4%	100	-	7.9	0	0
マイネット (3928)	1,678	-37.3%	100	680.3	2.0	0	0
大垣共立銀行 (8361)	2,849	-37.4%	100	12.5	0.4	38.5	2.5
ぐるなび (2440)	1,338	-42.5%	100	20.9	3.3	44	3.3
クックパッド (2193)	607	-43.5%	100	14.5	2.9	10	1.6

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

■ 東証 2 部

2017年に上昇率が大きかった銘柄

銘柄名	12/29終値 (円)	2017年 上昇率	売買単位 (株)	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想1株当 たり配当 (円)	予想配当 利回り (%)
大興電子通信 (8023)	1,315	642.9%	1000	40.7	4.3	3	0.2
サイバーステップ (3810)	2,575	562.0%	100	614.0	9.8	0	0.0
杉村倉庫 (9307)	1,399	364.8%	100	30.0	2.0	6.5	0.5
リミックスポイント (3825)	639	350.0%	100	65.0	8.6	0.5	0
児玉化学工業 (4222)	244	328.1%	1000	296.0	12.9	0	0
石井表記 (6336)	1,429	239.4%	100	12.4	7.0	0	0.0
堀田丸正 (8105)	405	232.0%	100	303.7	4.9	4	1.0
アルトナー (2163)	2,155	224.1%	100	26.6	6.3	26	1.2
ウイルプラスホールディングス (3538)	1,232	215.1%	100	15.0	2.7	12.5	1.0
三社電機製作所 (6882)	1,549	214.8%	100	23.6	1.2	12	0.8

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

2017年に下落率が大きかった銘柄

銘柄名	12/29終値 (円)	2017年 下落率	売買単位 (株)	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想1株当 たり配当 (円)	予想配当 利回り (%)
川上塗料 (4616)	1,618	-31.1%	100	7.7	0.8	20	1
サイオス (3744)	605	-33.8%	100	-	3.1	0	0
インタートレード (3747)	284	-36.3%	100	170.1	1.5	0	0.0
安川情報システム (2354)	588	-36.6%	100	32.3	7.6	6	1.1
Jトラスト (8508)	734	-37.9%	100	9.3	0.5	12	1.6
アルデプロ (8925)	88	-43.9%	100	47.6	7.8	1	1
クリアホールディングス (1757)	22	-46.3%	100	-	1.1	0	0
ヨネックス (7906)	724	-46.7%	100	29.4	1.8	5	0.7
フライトホールディングス (3753)	691	-58.6%	100	32.7	8.4	0	0.0
昭和ホールディングス (5103)	95	-60.6%	100	17.9	1.1	0	0.0

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

■新興市場（ジャスダック・マザーズ）

2017年に上昇率が大きかった銘柄

銘柄名	12/29終値 (円)	2017年 上昇率	売買単位 (株)	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想1株当 たり配当 (円)	予想配当 利回り (%)
アイケイ (2722)	4,280	756.9%	100	23.1	8.0	20	0.5
五洋インテックス (7519)	645	545.0%	1000	325.7	12.3	0	0.0
デジタルメディアプロフェッシ (3652)	15,270	533.6%	100	—	24.6	0	0.0
グレイステクノロジー (6541)	8,060	510.6%	100	135.5	38.3	8.75	0
ラクオリア創薬 (4579)	2,350	493.4%	100	—	13.7	0	0
夢展望 (3185)	1,336	463.7%	100	18.9	35.6	0	0.0
中村超硬 (6166)	6,320	409.7%	100	21.9	5.2	0	0.0
大木ヘルスケアHD (3417)	2,600	403.9%	100	24.3	2.5	14	0.5
SEMITEC (6626)	6,620	356.6%	100	34.1	2.3	20	0.3
串カツ田中 (3547)	3,990	338.5%	100	121.4	18.3	35	0.3

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

2017年に下落率が大きかった銘柄

銘柄名	12/29終値 (円)	2017年 下落率	売買単位 (株)	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想1株当 たり配当 (円)	予想配当 利回り (%)
アイフリークモバイル (3845)	239	-43.8%	100	180.4	8.7	0	0
UMNファーマ (4585)	566	-45.0%	100	—	26.2	0	0
グローバルウェイ (3936)	2,739	-45.2%	100	—	6.6	0	0.0
窪田製薬ホールディングス (4596)	570	-45.4%	100	—	1.6	0	0.0
AppBank (6177)	510	-45.7%	100	—	4.6	0	0.0
カルナバイオサイエンス (4572)	1,128	-46.9%	100	—	6.8	0	0
バリューデザイン (3960)	2,052	-49.3%	100	102.8	3.9	0	0
イノベーション (3970)	1,703	-49.8%	100	25.6	4.0	0	0.0
ティビシィ・スキヤット (3974)	1,456	-57.9%	100	20.4	1.1	20	1.4
ウェッジホールディングス (2388)	324	-69.0%	100	19.8	1.5	0	0.0

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

以上が2017年に大きく上昇・下落した銘柄ですが、これだけを見てもあまり投資への示唆を得ることはできません。そこで今回は、前年にパフォーマンスが良かった銘柄・悪かった銘柄の翌年のパフォーマンスを調べてみました。具体的には一昨年2016年の上昇率が大きかった銘柄、下落率が大きかった銘柄の昨年2017年の動向をまとめました（東証1部のみ）。すると、2016年に大きく上昇した銘柄は、2017年もすべての銘柄が上昇していました。さらに10銘柄の平均上昇率は70.9%とTOPIXの上昇率を大きく上回っています。一方で、2016年に大きく下落した銘柄は10銘柄中8銘柄が上昇したものの、平均上昇率は14.5%とTOPIXの上昇率を下回りました。2017年に関しては大きく下落した銘柄を買う逆張り戦略よりも、大きく上昇した銘柄を買う順張り戦略がうまくいきやすかったと言えそうです。2018年はどちらが功を奏すのかぜひご注目いただければ幸いです。

2016年に大きく上昇した銘柄の2017年の騰落率

銘柄名	2016年 上昇率	2016年末 株価 (円)	2017年末 株価 (円)	2017年 騰落率
日本ライフライン (7575)	287.9%	1,165.5	2,356	102.1%
H a m e e (3134)	257.7%	935	1,891	102.2%
イー・ガーディアン (6050)	222.6%	1,312	2,709	106.5%
リンクアンドモチベーション (2170)	218.4%	429	920	114.5%
安永 (7271)	213.6%	2,068	2,641	27.7%
トランザクション (7818)	187.9%	826	1,027	24.4%
レック (7874)	153.4%	1,615	2,997	85.6%
メディカル・データ・ビジョン (3902)	153.0%	1,230	2,297	86.7%
ブイ・テクノロジー (7717)	147.5%	13,070	18,260	39.7%
ソフトバンク・テクノロジー (4726)	145.8%	1,625	1,940	19.4%
平均	198.8%	-	-	70.9%

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

2016年に大きく下落した銘柄の2017年の騰落率

銘柄名	2016年 下落率	2016年末 株価 (円)	2017年末 株価 (円)	2017年 騰落率
コロプラ (3668)	-59.0%	992.0	1,224	23.4%
USEN-NEXT HD (9418)	-58.9%	592	1,029	73.8%
クックパッド (2193)	-56.8%	1,075	607	-43.5%
ライドオンエクスプレスホールデ (6082)	-56.5%	867	1,155	33.2%
イー・ピーカンパニー (3175)	-53.8%	730	863	18.2%
田淵電機 (6624)	-47.6%	398	325	-18.3%
L I F U L L (2120)	-46.6%	792	1,008	27.3%
クミアイ化学工業 (4996)	-45.3%	712	759	6.6%
I D O M (7599)	-44.8%	644	800	24.2%
藤田観光 (9722)	-43.3%	3,520	3,535	0.4%
平均	-51.3%	-	-	14.5%

(出所) QUICKデータよりマネックス証券作成

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会